

記者発表(資料配付)				
月/日	担当課名	TEL	発表者名(班長名)	その他発表先
7/27(金) 14:00	産業労働部 国際局国際交流課	内線2095 078-362-3026	国際交流課長 横川 太 (交流企画班長 多留 幸子)	

### 金澤副知事の海外出張概要(ブラジル連邦共和国・アルゼンチン共和国・パラグアイ共和国)

本年は、日本人が移民船「笠戸丸」で神戸港を出発しブラジルに移住してから110周年を迎える。この節目の年を記念し、本県との友好提携を結ぶパラナ州(クリチバ市、マリンガ市)と世界最大の日系人都市であるサンパウロ市において7月に開催される日本人移住110周年記念式典に、本県から金澤副知事を代表とする訪問団を派遣してこれを祝った。

併せて、この機会を捉えて日本人移住者が定着するアルゼンチン共和国、パラグアイ共和国の南米2カ国も訪問し、各地の兵庫県人会、現地日系人や駐在日本国大使、本県から現地に進出する企業等との意見交換や関係施設の訪問・視察等を通じて各国との交流を推進した。

#### 記

期 間	平成30年7月13日(金)～7月23日(月)
訪問地	ブラジル連邦共和国、アルゼンチン共和国、パラグアイ共和国

## I 日本人ブラジル移住110周年記念事業

### 1 パラナ州移住110周年記念事業開会式/歓迎昼食会(クリチバ:パラナ州政府主催)

○ 日 時:平成30年7月19日(木)14:30～15:30

○ 場 所:パラナ州政府庁舎(イグアス宮殿)(クリチバ市)

○ 参加者:約85名

(パラナ州政府関係者)

シダ・ボルゲッティ知事、マルコス・スタン イタイプー水力発電所所長、  
ジョージ平岩 農務局長、他、州閣僚・関係者 等

(その他現地関係者)

山田 駐ブラジル日本国大使、ルイ原 クリチバ日系クラブ会長

他 日系人団体関係者

(兵庫県側)

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、長濱淡路市副市長、  
安藤姫路市企画政策推進室長、竹内日伯協会常務理事、  
高井兵庫県国際交流協会理事長 等(訪伯全団)

(現地進出県内企業)

住友ゴム工業、ハリマ化成グループ、シスメックス、三井住友銀行

○ 内 容:

パラナ州側の最大の敬礼を込めて、兵庫県訪伯全団を代表して金澤副知事が、イ

グアス宮殿（州政府庁舎）前で州軍の儀仗隊により迎えられた。

その後、訪問団一行は全員、宮殿 2 階の白黒大理石タイルが床に敷き詰められた豪華な大ホールに案内され、パラナ州移住 110 周年記念事業の開会式典と兼ねたボルゲッティ知事主催の歓迎昼食会が催された。

冒頭、ボルゲッティ知事より、今回の本県訪問団一行の歓迎と 48 年に渡り本県と教育・農業・環境等の広い分野での実質的な友好交流を通じて友情を培ってきたことへの感謝、州内 15 万人の日系人社会がいかに州の発展に貢献してきたかについて言及された。続いて、パラナ州での日本移民 110 周年記念事業実行委員会代表としてルイ原 クリチバ日系クラブ会長からも歓迎祝辞をいただいた。

金澤副知事からは、日本人移住者の功績の上に 48 年の本県とパラナ州の友好交流があり、今回併せて訪問する県下 4 都市でも州内市との交流が広がっていること、2 年後の友好提携 50 周年に向けてさらに心と心の通い合う交流の広がりを願い、祝辞の答礼をおこなった。



【式典で祝辞を述べる金澤副知事】

## 2 パラナ州移民 110 周年記念式典

／マリンガ文化体育協会（ACEMA）主催 眞子内親王殿下歓迎昼食会

／EXPO IMIN110（産業展示会）視察（マリンガ）

○ 日 時：平成 30 年 7 月 20 日（金）

昼食会 12:45～14:00

展示会視察 17:00～18:00

式典 18:00～19:30

○ 場 所：昼食会 パラナ州マリンガ市 マリンガ文化体育協会（ACEMA）

展示会、式典 パラナ州マリンガ市 エキスポ アリーナ

○ 参加者：昼食会・約 350 名、式典・約 1000 名

特別国賓・眞子内親王殿下

（パラナ州側）

ルイス西森 連邦下院議員（実行委員長）、ボルゲッティ知事、

アフォンソン塩崎 ACEMA 会長、上田憲司 同 顧問、

ルイ原 クリチバ日系クラブ会長 他日系関連団体 等

（兵庫県側）

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、長濱淡路市副市長、安藤姫路市企画政策推進室長、竹内 日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長

他訪伯団全員

（他、日本人関係者）

山田 在ブラジル日本国全権大使、木村 在クリチバ日本国総領事、

高知県代表団（副知事他）、鳥取県議団（議会議長他）、

愛知県豊橋市代表団（市長他） 等

（現地進出県内企業）

住友ゴム工業、ハリマ化成グループ、シスメックス、三井住友銀行

○ 内 容：

移民 110 周年記念事業に合わせた皇室訪伯の行程でマリンガをご訪問の眞子さまを地元日系人団体が協力して歓迎し、代表するマリンガ文化体育協会（ACEMA）が主催して歓迎昼食会が開催され、パラナ州、日系人団体、現地進出日系企業や今回の記念式典祝賀のために訪伯している全ての日本訪伯団総勢 350 名が招待された。

熱狂的な歓声とともに迎えられた眞子さまと同じ壇上に、本県から金澤副知事とマリンガ市と友好提携している岡田加古川市長が山田大使や木村総領事、ボルゲッティ パラナ州知事らとともに登壇し、地域交流の推進自治体としてご紹介いただいた。

優しさ親しさとともに気品あふれる眞子さまの人気は絶大で、ブラジルらしく和やかな雰囲気の中で迎えられて、

「遠いが親しみのあるブラジルを訪問できたことと歓迎会に感謝するとともに、日本人移住者が今日あるブラジル社会に深く寄与していることを誇らしく思う」とお言葉を述べられた。日本を象徴する皇族を敬い、大切にしている在住日系人の熱い思いを強く感じる、心温まる歓迎会であった。

この後、式典と同敷地内の見本市会場で開催される EXPO「IMIN110」を視察した。

同 EXPO は式典と連携して日系企業展示を中心に紹介する見本展示市で、日系企業約 40 社が出展している。この中で、兵庫県ブラジル事務所の調整により、今回の訪伯に参加する県内ブラジル友好提携都市が相互協力してブース出展を行っている。郷土料理「かつめし」などを紹介する加古川市、姫路城を模型展示して観光紹介を行う姫路市、灘の酒処として辰馬本家酒造の酒が味わえる西宮市、名産「淡路のり」を紹介する淡路市と、これらを統合紹介する兵庫県ブースが集約して展示され、各友好提携先であるマリンガ市、クリチバ市、ロンドリーナ市、パラナグア市とも合同で観光名所の紹介などを行った。ブースには地元日系人社会の若い子弟にお手伝いいただくとともに、パラグアイに本県より日本語教育のため派遣されている松浦、羽石両講師にも応援で訪伯参加いただいた。

110 周年記念式典は、パラナ州内日系人団体や日系企業が協力して記念事業実行委員会（委員長：ルイス西森 連邦下院議員）の主催により、会場アリーナに千人を超える参加のもとで盛大に催された。

金澤副知事はじめ訪伯した日本自治体・企業の代表が眞子さまとともに来賓として壇上に上がる中、日本人移住の歴史と今日のブラジル国家建設に大きな役割を果たす日系人の辿ってきた道のりを振り返り、その功績を顕彰して、ボルゲッティパラナ州知事、ブラジル連邦大統領メッセージ紹介から映像紹介、移民の父として慕われる水野龍氏（移民会社を興して日本人移住の礎を築いた）の息子 龍三郎氏への表彰授与、そして地元の子供たちや若者による



【昼食会であいさつする金澤副知事  
（左：式典実行委員長のルイス西森連邦下院議員）】



【マリンガ 移住 110 周年記念式典】

踊りや和楽演奏・日系歌手による 110 周年歌の紹介と、多彩な催しに盛り上がった。

特に眞子さまのご挨拶とその中で日系人への敬意を示された場面では会場の歓声と拍手が最高潮に達した。最後にルイス西森 実行委員長の方歳三唱で、真冬にもかかわらず暑いマリンガでの式典が終わり、引き続いて盆踊りの場と化した会場を後にした。

今回は初めてマリンガで開催された移住関連周年事業であり、運営面で関係団体間の情報共有がうまくされていないなどの課題があったとのことであるが、事業を支える日系社会の熱意がひしひしと感じられるイベントであった。

### 3 ブラジル日本人移住 110 周年記念式典 (サンパウロ)

- 日 時：平成 30 年 7 月 21 日 (土) 12:00~14:00
- 場 所：サンパウロ エキスポエキシビジョン & コンベンション センター
- 参加者：約 4 千名

#### (ブラジル側)

アウレーディオブラジル外務大臣(テメル大統領代理)、  
マルシオサンパウロ州知事 他政府関係者  
呉屋晴美 祭典委員長 (ブラジル日本文化福祉協会会長)、  
山田康夫ブラジル日本都道府県人会連合会 (県連) 会長 他

#### (日本側)

特別国賓・眞子内親王殿下  
山田日本国大使、日本の 18 都道府県代表

#### (兵庫県側)

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、長濱淡路市副市長、  
安藤姫路市企画政策推進室長、竹内日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長、  
企業関係者 ほか訪伯団全員

#### ○ 内 容：

移民 110 周年記念式典は、効果的かつ効率的な集客を考慮して、毎年恒例の南米最大の日本文化イベント「フェスティバル・ド・ジャポン(日本祭り)」と合わせて開催されている。場内コンベンションセンターにスタジアム形式の式典会場が生まれ、壇上には日本から慶祝訪伯している 18 都道府県団の代表、支援企業、政府関係者、日系団体代表が登壇し、順次丁寧に紹介された。



【サンパウロ 移住 110 周年記念式典】

この後、前夜のマリンガ式典と同様に、熱狂的な歓迎の歓声の中、眞子さまの登壇で始まった。

儀仗隊の演奏入場とともに、ブラジル 27 州旗と日本の 47 都道府県旗が掲げられて入場したのち、国歌斉唱、続いて山田康夫 ブラジル日本都道府県連合会会長、呉屋春美 祭典委員長、サンパウロ市市長、アウレーディオ外務大臣と祝辞が続き、最後に眞子さまが日系人の歩みと今日の活躍を称え、敬意を表する挨拶を行い、会場の盛り上がりは最高潮に達した。続いて、阿波踊りと琉球祭り太鼓が圧倒的な迫力で披露されて会場を魅了した。

## II アルゼンチン共和国

### 1 ブエノスアイレス日亜学院視察

○ 日 時：平成 30 年 7 月 16 日（月） 8:00～9:00

○ 場 所：日亜学院（ブエノスアイレス市）

○ 参加者：15 名

（日亜学院側）

デリア三井学院長、真木信明副理事長

＜同席＞三田村 JICA アルゼンチン事務所長、

アルゼンチン兵庫県人会 今村直人会長、今村欣司前会長、リカルド原 元会長 等

（兵庫県側）

金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等

○ 内 容：

日本人移住者子弟の日本語教育を目的に 1927 年に開設されたブエノスアイレス日亜学院を視察した。移住者子弟の帰国後を想定して 29 名の生徒（小学生）で日本語学校として発足した同校は、1938 年に日西両語過程を併設した当国初の日系小学校として国の認定を受け、その後、第 2 次世界大戦時の閉鎖期間を経て、現在は幼稚園から中高、成人コースをカバーする日・西・英語 3 か国語教育認定校（日本語クラスは必須）として公認され、昨年には創立 90 周年を迎えた。幼稚園 175 名、小学部（7 年制）330 名、中高部（5 年生）130 名に加えて土曜コース、成人コースを加えると総生徒数約 1500 名、教職員 177 名になる。現在は生徒の 7 割が非日系であるが、当初の日系人子弟教育の設置目的を引き継いで、日本語教育のみならず、個人主義のアルゼンチンに対して調和を重視する日本の価値観と文化を広く発信する役割を担っている。



【校舎内で小学部コースの作品等を視察】

真木副理事長からも、同校が次代の日亜両国の懸け橋となる人材育成の場として貢献することを目指しているとの説明があった。来年度からは短期大学の開設（日本語学）を計画しているとのこと。

運営上の課題は、時代や現地事情に合った良質の日本語教材と優れた教員の養成・確保である。JICA や国際交流基金、各県人会が設置する日本語学校が連携する日本語教育連合会等の支援や協力により対応しているが、やはり「生きた日本語」を学ぶ上では日本からの教員派遣が望ましいとのこと。

日本語を学んだ学生の進路についても、これを活かせる進路指導が求められており、金澤副知事から、2019 年より兵庫県立大学に開講する「国際商経学部グローバルビジネスコース」のパンフレットを配布して紹介した。

### 2 アルゼンチン兵庫県人会との交流会

○ 日 時：平成 30 年 7 月 15 日（日） 20:00～22:30

○ 場 所：El Viejo Almacen, Tango（ブエノスアイレス市）

- 参加者:約 60 名  
(アルゼンチン兵庫県人会側)  
今村直人会長、今村欣司前会長、リカルド原 元会長 等  
(兵庫県側) 金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等  
(日本大使館) 菱山公使、古川領事  
(JICA) 三田村アルゼンチン事務所長、小野ボランティア調整員

○ 内 容 :

今村会長より、今回の金澤副知事代表団の訪亜に対する謝意とともに、創立 58 年目を迎える県人会が、約 100 年前に来亜した先人の大変な苦勞と努力の上に、これまで県費研修生の訪日などの活動を通じて相互の絆を深め、最近では 30 歳以下の役員（デミアン山田、クリスチャン山田ご兄弟）も活躍して会の活動を支えている現状の報告があった。また、会長ご自身も 2006 年の本県国体に参加された思い出を語られた。

来賓として同席された在アルゼンチン日本国大使館の菱山公使参事官からは、本年が日本とアルゼンチンの外交樹立 120 周年を迎えたこと、本年はアルゼンチンが G20 の議長国、また来年の議長国が日本となるため、両国の首相、大領領、閣僚が頻りに相互訪問して日亜交流が急速に進展すること、加えて地方レベルでの日亜交流がますます重要になることへの言及があった。本日の金澤副知事訪問についてもこうした 120 周年事業の位置づけとして日亜間の確かな交流進展に寄与するものとの紹介があった。



【アルゼンチン県人会のみなさんと】

金澤副知事からは、当日、今村会長、原前会長等のご案内で大統領府やコロソ劇場、タンゴの発祥地ボカ地区のカミニートや多くの家族連れで賑わう日本庭園など高い文化の香り漂うブエノスアイレス市内をご案内いただいたお礼と印象をお伝えするとともに、アルゼンチン兵庫県人会の長きにわたる活動の中で、郷土兵庫県への留学生や研修生派遣、会員相互の親睦・交流事業を活発に展開し、様々な形でアルゼンチン社会の発展に寄与されていることに敬意を表し、資源に富み素晴らしい文化を持つアルゼンチンと日本・兵庫県を結ぶ懸け橋として更なる交流促進に協力いただくことをお願いした。

交流会では、原リカルド前会長の 91 歳になるお母さまや、4 歳の若い会員も加わり、本県代表団と県人会会員同士の家族的な和やかな懇談とタンゴショーの踊りで盛り上がり、互いの親交を深めた。

### Ⅲ パラグアイ共和国

#### 1 アスンシオン日本語学校視察

- 日 時：平成 30 年 7 月 16 日（月） 15:00～16:10

○ 場 所：アスンシオン日本語学校（アスンシオン市）

○ 参加者：18名

（日本語学校側）ニルダ関 校長

松浦 JICA ボランティア兵庫県派遣講師、羽石 同講師、山口 同講師

<同席> 桧垣竜介パラグアイ日本人会連合会会長、菊池昭雄 同事務局長、

近藤 JICA パラグアイ事務所次長

岸田省一パラグアイ兵庫県人会長

石田 在パラグアイ日本国特命全権大使

（兵庫県側）金澤副知事、ブラジル事務局長、国際交流課長 等

○ 内 容

1967年に設立され、現在、アスンシオン日本人会（日系人約250家族で構成）が運営するアスンシオン日本語学校を視察した。同校は幼稚園、小・中学生の児童生徒142名が通学しており、教職員は、関校長以下12人のほとんどが2・3世で、日系・非会員の子弟も通学している（児童生徒の8割は日本国籍）。『原点に戻って日本語を継承する』という教育運営方針にもとづき、語学としての日本語だけではなく、日本文化の学習を通じて、日本人としてのアイデンティティの継承を目指している。



【図書室にて国語の教科書を贈呈】

同校では、同席した本県からのJICAボランティア派遣講師3名のうち、羽石講師が昨年度より活動しており、当日は冬休みで生徒が不在のため、各地日本語学校の講師（非日本人を含む）を対象とした「教育セミナー」の講義を視察した。羽石氏のような日本国内の現職教師で、現場と教育学を学んだ講師は大変に貴重で「求められる」人材であり、関校長や桧垣会長、JICA次長からも重ねて本県からの継続派遣の要望をいただいた。JICAからは本県との講師派遣の協定締結を望む発言もあったが、派遣には本人の意思が不可欠であるため、まずは現派遣講師の経験を彼らのネットワークを通じて伝え広げ、パラグアイでの講師活動の理解と希望を喚起する環境を作ることが重要であるとの認識を共有した。

同校では、日本語を読むことによる「図書活動」に力を入れているとのことであり、以前より要望として伺っていた小・中学校の文科省認定の「国語」教科書をこの場で金澤副知事より贈呈したところ、関校長はじめ関係者全員より重ねて感謝の言葉をいただいた。日本国内の公認教科書は日本の文科省認定校以外は入手が難しく、特に新しいものの寄贈は大変助かるとのことである。

## 2 パラグアイ三育学院視察

○ 日 時：平成30年7月16日（月） 16:30～17:30

○ 場 所：パラグアイ三育学院（アスンシオン市）

○ 参加者：13名

（三育学院側）柴田寛三 校長 他

松浦 JICA ボランティア兵庫県派遣講師、羽石 同講師、山口 同講師

<同席> 近藤 JICA パラグアイ事務所次長

岸田省一パラグアイ兵庫県人会長

石田 在パラグアイ日本国特命全権大使

(兵庫県側) 金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等

○ 内 容 :

JICA ボランティア制度を活用してアスンシオン日本語学校と同様に本県から教師派遣(日本語教育)を行っているパラグアイ三育学院を訪問し、意見交換を行った。

同校は 1971 年に寮での移住者子弟預かりから活動が始まったもので、設立母体はセブンスデー・アドベンチスト協会。1973 年に日本語部、1975 年にスペイン語部も設置し、パラグアイ政府認可の教育機関として発展してきている。児童・生徒数は 350 人で、このうち保育・幼稚・



【栄田校長ほか学校関係者と意見交換】

小・中・高・会話課程の約 40 人が日本語を学んでいる。昨年度より

JICA ボランティアで松浦氏が同校に講師派遣されている。現職、教育理論、そしてスペイン語が堪能な松浦氏には、生徒相手の講師だけでなく同国の日本語教師に対する指導講師としての役割も期待されており、栄田校長からは兵庫県からの逸材として引き続き同地での活動継続をとの強い要望と、それが無理なら後続の人材派遣を期待するとの声もいただいた。松浦講師のような資質条件はハードルが高いものの、学院としてもパラグアイでの受け入れ態勢をしっかりと整備し、安心して来ていただく環境を整備したいとの意欲を表明された。

### 3 カスティグリオーニ・パラグアイ次期外務大臣面談

○ 日 時 : 平成 30 年 7 月 16 日 (月) 18:00~18:30

○ 場 所 : カスティグリオーニ大臣私邸

○ 参加者 : 7 名

(パラナ州政府関係者)

ルイス・アルベルト・カスティグリオーニ パラグアイ次期外務大臣

ファン・フランシスコ・ファセッティ アスンシオン国立大学教授

<同席> 石田 在パラグアイ日本国特命全権大使

(兵庫県側) 金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等

○ 内 容

本年 6 月 21 日にご夫妻で兵庫県を訪問し、知事、金澤副知事を表敬訪問されたカスティグリオーニ次期外相のご厚意によりご自宅へのご招待を受け、来日同行されたファセッティ教授とともにお迎えいただいた。

カスティグリオーニ氏からは、重ねて 6 月に訪問した有馬温泉や姫路城、神戸牛の素晴らしい思い出と、神戸でお会いした井戸知事、金澤副知事と兵庫県のホスピタリティに対する感謝の言葉をいただいた。1 か月後に新しい大統領の下、新政権が発足するが、新外相として日本との関係強化と交流促進に尽力するとともに、2019 年の



【次期外務大臣(右から 4 人目)私邸にて】

日本パラグアイ外交樹立 100 周年には新大統領とともに訪日が計画されているとこ

る、是非、ともに兵庫県を訪問したい、その際には先の来県時に井戸知事より贈られた「県民の鍵」を使いたいとの言葉をいただいた。

なお、先のカスティグリオール二次期外務大臣の来県と今回の私邸招待を調整いただいた石田大使には、訪問に先立って大使公邸をご案内いただき、ご夫人手作りのお菓子を頂戴するという厚遇をいただいた。

#### 4 パラグアイ兵庫県人会との交流会

- 日 時：平成 30 年 7 月 16 日（月） 19:00～21:00
- 場 所：レストランすきやき（アスンシオン市）
- 参加者：約 30 名  
（パラグアイ兵庫県人会側）岸田省一会長 他、会員ご家族 等  
＜同席＞ 石田 在パラグアイ日本国特命全権大使、松浦・羽石・山口講師  
（兵庫県側）金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等
- 内 容：

岸田会長から、知事をはじめ荒木副知事、今回の金澤副知事と近年次々に県幹部がパラグアイを訪問し、同国兵庫県人に心を掛けていただいていることに対する深い感謝の言葉とともに、何よりも日本から同国に人をお迎えすること自体が大きな喜びであるとの大変温かい言葉をいただいた。また石田大使の日頃からの現地日系人への心遣いにも感謝が述べられた。



【パラグアイ県人会のみなさんと】

金澤副知事からは、先にお会いしたカスティグリオール二次期外務大臣との会談内容ご紹介と、こうした政府相互の強固な 2 国間関係をベースに、今後さらに一歩進んだ両国関係が進むことの期待を述べた。

また、石田大使からは、①兵庫県が日本語教師を派遣していること、②パラグアイに訪問団をたびたび派遣していること、そして③今後の日本外交に繋がる次期外務大臣の訪県に懇切に対応したこと、について感謝の言葉をいただいた。

このあと、現地食材を使って用意いただいた日本料理を味わいながら、パラグアイの社会に溶け込みながらも日本の精神や文化を大切に伝えている県人会員の皆さんと自由な懇談を楽しみ、心温まる友情を深めた。

## IV ブラジル連邦共和国

### 1 クリチバ市長表敬、歓迎昼食会

- 日 時：平成 30 年 7 月 18 日（水） 12:30～14:00
- 場 所：クリチバ市迎賓館（SMMA）
- 参加者：約 35 名  
（クリチバ市側）ラファエル・グレッカ市長（挨拶のみ）、  
ルイス早川 都市計画研究所元所長

(県関係) 金澤副知事、石井西宮市長、安藤姫路市企画政策推進室長、  
ひょうご環境創造協会 等

(他来賓) 中村ひとし 元クリチバ市環境局長、田丸八郎 日伯文化援護協会秘書、  
ジョージ山脇 日伯文化援護協会会長 等

○ 内 容 :

パラナ州の州都で、姫路市の姉妹都市であるクリチバ市を姫路市代表、西宮市代表団とともに訪問し、グレッカ市長のご招待により、パラナ杉をはじめ多様な自然林に囲まれたクリチバ市迎賓館で市長主催歓迎昼食会が催された。

グレッカ市長は公務の都合により、冒頭の歓迎挨拶と記念品交換のみとなったが、豊かな自然に囲まれた素晴らしい環境の中、ブラジルの伝統音楽演奏に迎えられた私たち一行を前に、最大限の歓迎の意を示された。また、本県・パラナ州との友好交流と並行してクリチバ市と姫路市が1984年以来長きにわたり教育や文化など様々な交流を続けていることに触れ、今後さらに友情の絆を深めたいとの意向を述べられた。



【クリチバ市長(右)と固い握手】

## 2 ファゼンダ・リオ・グランデ市長表敬訪問

○ 日 時 : 平成 30 年 7 月 18 日 (水) 15:00~15:30

○ 場 所 : ファゼンダ・リオ・グランデ (FRG) 市庁舎

○ 参加者 : 7 名

(FRG 市側) マルシオ・クラウジヨ・ヴォスニアキ市長

<同席> シッコ・サントス 前 FRG 市市長、

ガスタオ・ファビアノ・ゴンチョロフスキ FRG 市商工会議所会頭

(県関係) 金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等

○ 内 容 :

県内企業である住友ゴム工業が進出し、2013 年より操業するファゼンダ・リオ・グランデ市を訪問した。

同市は、南米への進出先を検討していた住友ゴム工業(本社・神戸)に対して井戸知事が本県友好州であるパラナ州の紹介を行い、本県ブラジル事務所やひょうご産業活性化センターの支援と、今訪問に同席されたシッコ前市長や当時のパラナ州リッシャ知事の協力のもと、立地環境の整った地として大型企業進出が実現した経緯がある。

マルシオ市長から、FRG 市はブラジル国内を繋ぐ高速道路網の拠点として期待され、現在 500 社の企業が進出していること、住友ゴム社の進出により 1,300 人の雇用が創出され、工業団地の土地単価が 7 倍以上に上昇するなど同市の経済発展を牽引しており、工業団地を整備してさらに



【ファゼンダ・リオ・グランデ市長(左)と】

日本企業の進出を期待していることや、同社が公園整備・管理や環境保全支援など地元貢献にも尽力していること、が紹介され、同社の進出を繋いだ兵庫県に対する深い感謝の言葉が述べられた。

金澤副知事からは、昨年10月のパラナ州経済訪問団の来県以来の再会を喜ぶとともに、住友ゴム工業の立地に関する本県からの支援の経緯紹介、今回、県ブラジル事務所を通じて要請した住友ゴムの現地税（商品流通税）減免措置延長を、所管のパラナ州政府と調整いただいて実現したことへのお礼、今後さらなる経済交流の進展と相互発展への期待について述べた。

なお、本件県内企業の現地税減免措置の延長については、本県ブラジル事務所の仲介・調整により、本年6月25日に当事務所、FRG市マルシオ市長とシッコ前市長、パラナ州リッシャ前知事が立会い、パラナ州現知事と窪田 住友ゴムブラジル社長との間で措置延長確認書の調印が行われた。

### 3 住友ゴム工業ブラジル工場視察

- 日 時：平成30年7月18日(水) 16:15～17:00
- 場 所：住友ゴム工業ブラジル工場（ファゼンダ・リオ・グランデ(FRG)市）
- 参加者：

（住友ゴム工業側）

（日本からの参加）池田 日本本社代表取締役社長、井伊 米州本部長、  
脇谷 ブラジル社長、栗田 取締役、窪田 社長室長、石川工場長 等

＜同席＞ マルシオ・クラウジョ・ヴォスニアキ FRG市長、シッコ 同市前市長  
（兵庫県側）金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等

- 内 容：

2011年に本県ブラジル事務所の支援でパラナ州進出を決定し、約350億円の投資により2013年からFRG市で工場操業を開始した住友ゴムブラジル工場を視察した。

工場敷地面積50万㎡、従業員数約1,500名、現地を代表する大型企業である同社は、南米向けの乗用車用ラジアルタイヤの製造・販売を行って好調な業績を上げており、今後トラックやトラクターの大型タイヤ生産のため工場規模拡張を計画しているとのこと。



【池田住友ゴム日本本社代表取締役(右)と】

本県からの今訪問に合わせて日本から来伯されている池田社長からは、同社のFRG市進出や減税措置延長のパラナ州政府への働き掛け等における本県の支援に対する感謝とともに、海外拠点の中でも地理的、経済活動環境に恵まれたブラジル工場は今後戦略的に規模拡張を行い、CRS活動も推進して地元貢献を進めていきたいとの意向が示された。

工場内視察では、独自のSUNシステムを開発して非常に効率的な最新の工程整備を行っていることが強調され、生産工程のコンピューター制御により工員個人が高度な技術を要さずに従事できること、生産品素材の6～7割がブラジル産であることなどの説明をいただいた。

同席した地元FRG市マルシオ市長からは、信頼の高い日本大手企業である住友ゴ

ムの立地が、最近是他企業の転入進出増加につながっていることの紹介があった。

#### 4 パラナ州元留学生協会（APAEX）主催歓迎夕食会

- 日 時：平成 30 年 7 月 18 日（水） 19:30～21:30
- 場 所：クリチバ市内レストラン（ドン・アントニオ）
- 参加者：約 100 名

（APAEX 側）

ロドリゴ・シュミット APAEX 会長、ルイ原 クリチバ日伯文化援護協会会長、山内誠 パラナ州柔道連盟顧問（元 APAEX 会長）、中桐廣文 パラナ州日伯文化・科学協会会長、大城義昭 パラナ日伯商工会議所会頭 等

（兵庫県・訪問団側）

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、安藤姫路市企画政策推進室長、竹内日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長 等

#### ○ 内 容

パラナ州元留学生協会（APAEX）は日本の文化・芸術・技術・医療などを JICA やブラジルの公的機関と連携しながらセミナーや展示を通じてブラジルへ普及することを目的として活動しており、クリチバ本部のほか、マリンガ、ロンドリーナ、パラナグアに支部を置く。これまで姫路市とクリチバ市の青年交流事業として参加した者が 70 数名在籍し、兵庫県留学生として本県に留学した者も数名在籍している。

冒頭、シュミット会長からは、ブラジル日系移民の歴史に触れて日系人とブラジル社会のつながりの深さが紹介され、あわせて訪問団を心から歓迎する挨拶をいただいた。

これを受けて、金澤副知事からは日本への留学経験者を核に日系人が親しく集まる場としての APAEX の活動を継続されていること、13 年前からおこなわれている日本カレンダー販売会事業を通じて日本理解の促進に貢献いただいていることへの感謝を述べた。

引き続き、今県民交流団団長である高井 兵庫県国際交流協会理事長、石谷法律事務所弁護士から、110 年という日本人移住 1 世たちの様々な苦勞と困難を乗り越えてきた努力の上に、今日のブラジル社会での 2 世以降の日系人のゆるぎない信頼が得られている事への敬意が示され、乾杯ののちに訪問団と APAEX 関係者との間で親しく歓談の時間を過ごした。



【APAEX のみなさんと】

#### 5 大竹富江・記念除幕式参加／クリチバ市内視察

（日本公園、公設市場、ポタニコ・デ・クリチバ庭園、オスカー・ニーマイヤー美術館）

- 日 時：平成 30 年 7 月 19 日（木） 9:00～13:30
- 場 所：クリチバ市内日本公園周辺

- 参加者：約 150 名

(式典参加ブラジル側関係者)

グレッカ クリチバ市長、市関係者 他  
一般市民 (除幕式)

(日本側)

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、安藤姫路市企画政策推進室長、  
竹内日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長 等

- 内 容

大竹 富江氏(京都府生まれ、1913-2015年)はブラジルに帰化した美術家で、ブラジルが誇る現代美術の巨匠。その作品は、日本の価値観とブラジル文化の融合と称される。クリチバ市の招待を受けて、故人の功績を称えて市内中心にある日本公園前に新設された記念碑の除幕式に立ち会った。



【除幕式後、記念碑の前で記念撮影】

陽光まぶしく晴れわたり、沖縄桜が満開となった日本公園に多くの市民が集ま

る中、日系人子弟による「クリチバわかば太鼓」の威勢のよい演奏に導入され、地元市民ブラスバンドの伴奏により両国歌を斉唱したのち、グレッカ市長から今回訪問した本県関係団代表が市民に紹介された。金澤副知事より、本県とパラナ州、両地域の各市の間での多層的で幅広い分野での交流が長く続けられていることを紹介し、美術家大竹氏をはじめ多くの日本人移住者の絶え間ない努力と活躍によりブラジル国家形成の一役を担ってきたことへの敬意を表した。

その後、州の案内により、クリチバ市民の台所であるマニシパルクリチバ(市営市場)で豊富な農作物に溢れる市民生活を垣間見て、市のランドマークであるクリチバ庭園(ボタニコ・デ・クリチバ)の美しい鉄骨ガラス張り温室や、ブラジルが誇る天才建築家オスカー・ニーマイヤーがデザインした現代美術館を見学した。この美術館はその形から「目の美術館」として親しまれている。案内いただいたイラナ・レルネル館長とホアン・ルイス・フィアニ 州政府文化大臣に対して、同じく世界的建築家 安藤忠雄氏設計の兵庫県立美術館を紹介したところ興味を示された。

## 6 パラナ州 ボルゲッティ知事との交流協議

- 日 時：平成 30 年 7 月 19 日 (木) 15:00~16:00

- 場 所：パラナ州政府庁舎(イグアス宮殿)(クリチバ市)

- 参加者：約 20 名

(パラナ州政府関係者)

シダ・ボルゲッティ知事、マルコス・スタン イタイプー水力発電所長、  
ジョージ平岩 農務局長、カルロス・ボネッティ環境水資源局長

他 州閣僚・所管局長 9 名

(兵庫県側) 金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 等

<同席> 岡田加古川市長、長濱淡路市副市長、安藤姫路市企画政策推進室長、  
竹内日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長 等

## ○ 内 容：

ボルゲッティ知事以下、パラナ州側には環境・農業・科学技術と高等教育・経済・文化関連の閣僚および所管事務局長が同席して、今後の県州間交流の進め方について協議を行った。

金澤副知事より、友好提携締結以来48年にわたり着実に交流実績を重ねており、本県が南米に職員派遣する事務所を置く日本で唯一の自治体であり、相互コミュニケーション環境が整っていることを強調した。また、域内に立地する本県進出企業（住友ゴム工業）の州税（商品流通税）減免措置の延長について合意いただいたこと、こうした相互の経済協力をさらに進めて県内企業の進出支援と両県州の経済発展に繋げていくことを呼び掛けた。加えて、県政150周年事業として9月に神戸で姉妹州省サミットを開催することとしており、これに既にジョージ平岩 農務局長の派遣を決めていただいたことへのお礼を述べた。



【ボルゲッティ パラナ州知事との交流協議】

ボルゲッティ知事からは、日系人移民の功績がパラナ州の至宝であることや、これまで連携してきたクリーンエネルギー構想に関してテクノロジーセンタープロジェクトを進めており、同席の平岩局長、マルコス イタイプー発電所所長を窓口とすること、経済面では、多くの日系企業が州経済を牽引しており、重要な経済資源となっていることに言及された。

さらに、ボルゲッティ知事が力を入れている事業として、科学・文化局が進める国際化構想と、これへの本県の協力要請があった。この構想とは、州内7大学で外国語の習得を推進（外国語教師の訓練と成績優秀者の当該国派遣）して州全体の国際化を推進する計画である。既に姉妹都市であるカナダ・ケベック州と連携して英語とフランス語、この他にドイツ語等の合計6カ国語を進めており、既に実績を上げている言語もあるとのことであった。新たに日本語を加えたいとの意向である。

金澤副知事からは、2年後の友好提携50周年に向けた具体的な交流事業としてどのような協力ができるかを話し合っていきたい、また来年、兵庫県立大学に開講する「国際商経学部グローバルビジネスコース」の紹介をして、本プロジェクトで活用できないか州側でも検討を促した。



【ボルゲッティ知事へ記念品として播州織ストールを贈呈】

## 7 兵庫姫路会館訪問

- 日 時：平成30年7月19日（水）16:30～17:00
- 場 所：兵庫姫路会館（クリチバ市）
- 参加者：金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 他
- 内 容：

兵庫県とパラナ州、姫路市とクリチバ市の友好提携に基づく協力と相互支援により平成8年に竣工された「兵庫姫路会館」を訪問し、会館内に平成18年度より本県の南米交流拠点として設置する「兵庫県ブラジル事務所」の立地環境を確認した。

クリチバ国際空港から市内を結ぶ幹線道路途中にある同会館は、瓦屋根の城や寺院を思い起こさせる建物で、強いインパクトが存在感を高めている。事務所使用に支障はないが、22年の年月を経て内部壁面や床面など老朽化が進んでいるように感じる。建物前に伸びる幹線道路を挟んで「ファヴェーラ」と呼ばれるスラムエリアが広がるため、これまでも様々なセキュリティー面でのトラブルが数多く発生しており、建物管理と職員・従業員の安全・治安管理上つねに最大限の警戒が必要となる。

## 8 クリチバ日系クラブ 会館リニューアル開会式／歓迎交流会

- 日 時：平成30年7月19日（水）17:30～19:00
- 場 所：クリチバ日系クラブ（Rua Pedro Júlio Saazedra, 594 クリチバ市）
- 参加者：ルイ原 クリチバ日伯文化援護協会会長、現地日系人  
（兵庫県側）金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、長濱 淡路市副市長、  
姫路市団代表、竹内 日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長 等
- 内 容：

1947年に発足したクリチバ日伯文化援護協会（ルイ原 会長）は、78年に同地の青年らが設立した日系クラブと合併し、「クリチバ日系クラブ」となった。文化援護協会発足から昨年迎えた70周年を機に、敷地建物のリニューアル計画を進め、日本国総領事館を通じて日本文化としての支援を受けている。

新会館は「瀬戸クラウジオ館」と名付けられ、金澤副知事、ルイ原会長、高井理事長、在クリチバ日本国総領事館職員と永田ブラジル事務所長らにより竣工記念碑の除幕式、桜の植樹、会館エントランスのテープカットが行われた。

約3万1000平米にもなる敷地内には、野球場やフットサル・コート、体育館、テニスコートや室内プールなどが並ぶ。新会館名の由来となった瀬戸クラウジオ氏（故人、2世）は、75年にクリチバに転住し日本文化普及に尽力し、画家、伯国紙の新聞記者、漫画の伯国導入など、まことに多才な人物である。新館には1階に同氏の功績を称える作品ギャラリー、地下階に太鼓の練習場、2階（地上階）にサロン、3階に柔道、空手、合気道、剣道ができる武道場が設けられている。

施設視察後は体育館に移動し、協会員の方たちが作られた軽食をいただきながら懇談した。幅広い世代が集い、様々な活動が行える施設に、地域日系社会の連携拠点としての理想が垣間見えた。



【クリチバ日系クラブ竣工記念碑除幕式】

## 9 ロンドリーナ市およびローランジャ市内移民関連施設視察

(トミ・ナカガワ広場、ローランジャ移民資料館)

- 日 時：平成 30 年 7 月 20 日（金） 8:00～8:30／8:50～9:30
- 場 所：パラナ州ロンドリーナ市内およびローランジャ市内
- 参加者：金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 他
- 内 容：

西宮市の友好都市ロンドリーナは英国資本により開発された街で、「小さなロンドン」が市名の由来である。第一回ブラジル日本移民船「笠戸丸」で神戸から渡った日本人が入植し、開発に参加した町として知られ、現在 50 万人口のうち約 2 万人の日系人が暮らす。この第 1 回笠戸丸で着伯してロンドリーナで生活し、2006 年に 100 歳で死去された最後の笠戸丸移住者「中川トミ」氏に由来して、2008 年の日本移民 100 周年を機に公園として整備された「トミ・ナカガワ広場」を視察した。



【ローランジャ移民資料館】

市中心地約 1 万平米の広い敷地内に日系造形作家による高いモニュメントと 4 つの鳥居、お茶席などが整備されており、街の開発者としての日系人の功績を称える市民の憩いの場となっていることに感銘を受けた。

続いて、1978 年の移民 70 周年を記念して建設されたローランジャ移民資料館を訪問した。館内には移民当時の写真や当時持ち込まれた物、当時の家屋の再現などが多数展示されている。出発前、新天地を目指して一張羅の晴れ着を着た移住者たちの希望あふれる写真と、大木が生い茂るジャングルを開墾する写真が、夢と現実の大きな落差を描き出しており、1 世たちの想像を絶する苦労が偲ばれて言葉を失いながら、改めて深い敬意を抱いた。

10 マリンガ日本庭園視察

- 日 時：平成 30 年 7 月 20 日（金） 14:30～15:00
- 場 所：パラナ州マリンガ市内
- 参加者：金澤副知事、ブラジル事務所長、国際交流課長 他
- 内 容：

ロンドリーナと同じく 2008 年の移民 100 周年記念行事の一環として、マリンガ文化体育協会（ACEMA）主体で市内に建築された日本庭園（パルケ・ド・ジャポン）を視察した。



【マリンガ日本庭園】

マリンガ市と友好提携する加古川市の技術支援も受けて造園された庭園は、地元市民が無償で敷地提供し、約 10 万平方メートルの広大で起伏に富んだ敷地内に錦鯉が泳ぐ池や茶室、体育館やパーティー会場などが建造され、庭園を囲む塀に使用された瓦は加古川市が寄付したものの。

建設推進に関わってきたマリンガ市市長をはじめ、地域住民の「日系人の誠実さに対する尊敬」が10年をかけてこの大きな事業を実現に導いたとのことであり、感慨深い。

### 1 1 在クリチバ日本国総領事主催夕食会（マリンガ市）

○ 日 時：平成30年7月20日（金） 20:15～22:30

○ 場 所：Hotel Metropole Maringa 内レストラン

○ 参加者：約50名

（総領事館側）

木村総領事、山田 駐ブラジル日本国全権大使 等

（兵庫県側）

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、長濱淡路市副市長、  
安藤姫路市企画政策推進室長、竹内日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長

他訪伯団全員

（パラナ州側）

ルイス西森 連邦下院議員（記念事業実行委員長）、

上口寛 リーガ・アリアンサン会長、アルフォンソン塩崎 ACEMA 会長 等

○ 内 容：

主催者の木村総領事より、「本夕食会は兵庫県をはじめ移住 110 周年祝賀への日本からの訪伯団全員と地元日系人社会関係者が親しく交流する機会として催した」との紹介があり、金澤副知事を筆頭に、西宮市長、加古川市長、姫路市企画政策推進室長（市長代理）、淡路市副市長に順次メッセージの機会をいただいた。移住 110 周年記念式典をはじめ今回のマリンガでの様々な交流事業では、常に各地域の交流に配慮した運営が行われていることに改めて感じ入った。

また、110 周年記念式典会場から遅れて駆け付けたルイス西森 記念式典実行委員長からは、日本人移住者が守ってきた日本人の文化や伝統をこれからの日系人社会を担う世代に伝えつなげるために、今記念事業では「(記念となる)もの」を残すのではなく、次代に繋がる若い世代(約 150 名)に事業運営そのものに参加してもらうことを重点に、総領事と相談して計画を進めたとの紹介があった。

夕食会は、気安くざっくばらんな木村総領事の主催により、参加者同士が身近に交流を温められる懇談の場となった。



【乾杯あいさつをする金澤副知  
(右) 木村クリチバ総領事】

### 1 2 第 21 回日本祭り（フェスティバル・ド・ジャポン）視察

○ 日 時：平成30年7月21日（土）14:00～17:00

○ 場 所：サンパウロ エキスポエキシビジョン & コンベンション センター

○ 参加者：

（ご案内） マルリ松下 ブラジル兵庫県人会長

（兵庫県側）

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、長濱淡路市副市長、  
安藤姫路市企画政策推進室長、竹内 日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長  
他 訪伯団全員

○ 内 容 :

日本都道府県人会連合会（山田康夫会長）が毎年恒例で主催する南米最大の日本文化イベント「第21回フェスティバル・ド・ジャポン（日本祭り）」を視察し、ブラジル兵庫県人会の出展状況を視察した。

3日間の開催期間に約20万人が来場するだけあって、会場はまっすぐに歩けないほどの混雑状態である。兵庫県人会展の兵庫県ブースではラーメンと兵庫県産海苔を使った手巻き寿司を販売提供していたが、長蛇の列をなす人気であった。

今回は特別イベントとして、ブラジルにある47都道府県の県人会が参加し、どれだけ多くの種類の日本食をふるまうことができるのかというギネス世界記録への挑戦が行われた。マリリ松下兵庫県人会長をはじめ県人会連合会が奔走して様々な郷土料理や特産品などを準備し、約530種程度の日本の郷土料理が所狭しと並べられた。また、それぞれの品目を限定して試食できるように準備されていたが、会場を訪れた大勢の人たちは、先を争うように、さまざまな種類の日本食を試食していた。



【大人気の兵庫県ブース】

（帰国時にマリリ松下会長より連絡があり、今回の試みは残念ながらギネス認定に至らなかったとのことである。）

1.3 JAPAN HOUSE 視察

○ 日 時：平成30年7月21日（土）16:45～17:30

○ 場 所：JAPAN HOUSE Sao Paulo（サンパウロ市内）

○ 参加者：

（ご案内） アンジェラ平田ジャパン・ハウス・サンパウロ特別顧問（前館長）

（兵庫県側）金澤副知事、国際交流課長、ブラジル事務所長 他

○ 内 容 :

「ジャパン・ハウス」は日本政府が戦略的対外発信を強化するための拠点で、世界各地で設置計画を進めている。昨年5月に世界第1号店として開館したサンパウロのジャパン・ハウスを訪問視察した。隈研吾氏デザインの木組みの装飾が施された外観は木造建築の日本をイメージし、シンプルで美しく、現地の人々が「知りたい日本」を発信することをコンセプトとした新たな発信拠点で、高感度な人が集まる雰囲気漂わせている。視察時は途



【播州織コーナーで説明する平田特別顧問（右）】

絶えることなく人が訪れ、日本文化に対する関心の高さが感じられた。

1階は無印良品の販売エリアと日本の優れた産品を展示販売するセレクトショップで、本県産品としては玉木新雌氏の播州織り製品を販売している。値の張る商品であるが大変評判良く、売り切れが続出しているとのこと。現在、兵庫県ブラジル事務所を通じて県産海苔の試食販売について調整中である。

展示販売スペース以外にもシアター機能のある多目的スペースや、飲食、物販、書籍、カフェ（和食提供）など多彩なコーナーが設置されている。

今後、県ブラジル事務所を通じて、県産品や県内企業商品の海外マーケティング・ショーケースとして活用を検討していきたい。

#### 1.4 ブラジル兵庫県人会等との交流

- 日 時：平成30年7月21日（土）18:00～21:00
- 場 所：TEMPO DA CARNE - Marcos Bassi（サンパウロ市内レストラン）
- 参加者：約50名

（ブラジル兵庫県人会側）

マルリ松下会長、尾西貞夫顧問、ジルセ小林副会長（司会） 等

（兵庫県側）

金澤副知事、石井西宮市長、岡田加古川市長、長濱淡路市副市長、  
安藤姫路市企画政策推進室長、竹内 日伯協会常務理事、高井 HIA 理事長  
ハリマ化成グループ関係者 他 訪伯団全員

#### ○ 内 容：

まず、マルリ松下会長より、先の大雨被害に対するお悔やみの言葉が有り、今回の第21回日本祭りに兵庫県人会として参加して会員相互の交流を深めたことの報告があった。

これを受けて、金澤副知事より、県人会の日本祭り出展と、新しい試みとして他の都道府県人会と協力して530種を超える日本食・郷土料理を準備してギネス世界記録に挑まれた労をねぎらうとともに、機会を捉えて県人会員同士が親しみ、助け合い、また新しい世代も一緒に活動することによって会員相互の繋がりが生まれ、日系人社会の連携が引き継がれていくことに対する期待を述べた。

また、元留学生たちの思いや気持ちを込めた寄せ書きが副知事に贈られた。

今回の移住110周年の節目を記念し、永年、日伯交流の推進と移住の歴史顕彰に貢献してきた尾西貞夫顧問と、本県若手地域農業リーダーのブラジル研修に尽力いただいたマルリ松下会長それぞれに知事感謝状を贈呈した。

この後、多くの県人会員の皆さんと語り、しばしの懇談の時間をいただいて交流を深めた。

今回の行程では最後の訪問地となったサンパウロで、まさに私たちと地球の反対側で同郷人が助け合い、日本人であることへの誇りを持って日夜活動されていることを実感でき、意義ある最後の夜を過ごすことができた。



【多くの参加者が集うブラジル兵庫県人会】

#### IV 渡航日程

日 時	日 程	宿泊地
7月13日(金)	関空出発	機内泊
7月14日(土)	(ドバイ経由) ブエノスアイレス着	ブエノスアイレス泊
7月15日(日)	<b>【アルゼンチン共和国】</b> 在アルゼンチン日本国大使館公使面談 ／アルゼンチン兵庫県人会との交流会	ブエノスアイレス泊
7月16日(月)	日亜学院視察 (移動) ブエノスアイレス→アスンシオン <b>【パラグアイ共和国】</b> アスンシオン日本語学校視察 パラグアイ三育学院視察 在パラグアイ日本国特命全権大使表敬訪問 パラグアイ兵庫県人会との交流会	アスンシオン泊
7月17日(火)	(移動) アスンシオン→イグアス <b>【ブラジル連邦共和国】</b> 兵庫県民交流団との交流会	イグアス泊
7月18日(水)	(移動) イグアス→クリチバ (パラナ州) クリチバ市長主催歓迎昼食会、市内視察 ファゼンダ・リオ・グランデ市長表敬訪問 現地進出兵庫県企業(住友ゴム工業)視察 APAEX(パラナ州元留学生協会)主催歓迎夕食会	クリチバ泊
7月19日(木)	パラナ州知事との交流協議 パラナ州日本人移民110周年記念事業開会式 パラナ州知事主催歓迎昼食会 クリチバ日系団体クラブ開館式参加 同 クラブ主催夕食会 (移動) クリチバ→ロンドリーナ	ロンドリーナ泊
7月20日(金)	パラナ州内移民関連施設視察 (移民資料館等) (移動) ロンドリーナ→ローランジャ→マリंगा マリंगा 日本文化体育協会主催 眞子内親王殿下歓迎昼食会 EXPO 110 視察 パラナ州日本人移民110周年記念式典参加 在クリチバ日本国総領事主催夕食会	マリंगा泊
7月21日(土)	(移動) マリंगा→サンパウロ ブラジル日本人移民110周年記念式典参加 ブラジル日本都道府県人会連合会主催 眞子内親王殿下歓迎昼食会 ジャパンハウス視察 ブラジル兵庫県人会との交流会	
7月22日(日)	サンパウロ発 (ドバイ経由)	機内泊
7月23日(月)	関空着・帰国	

(問い合わせ先)  
産業労働部国際局国際交流課交流企画班  
T E L : 078-362-3026